

* 東京天文台 100 周年記念誌資料 ―その 3-48-3―(明治元年～45 年の年表原稿)

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料―その 1―」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料―その 2―」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料―その 3―」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目を―その 1―、2 箱目を―その 2―、3 箱目を―その 3―としたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかつてにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の最後の 48 項目について報告したい。第 353 号のリストには、

48. 明治元年～明治 45 年と書かれた封筒：明治元年～明治 45 年の年表原稿 非常に貴重とあり、この時点で非常に重要と書かれている。この資料を 3 回に分けて報告する第 3 弾である。

明 治	要 項	出 典	カド No.
22 (1889)			
22 2	寺尾台長は理科大学長菊池大義とともに天文台拡張の上申書を 東京天文台 100 周年年表に提出す。		
22	東京天文台編暦書刊行 (以後毎年)	科学史研究 才 16 号	18081
22	明治 23 年暦 本台編集にかゝる暦書の初本	学術大観 p.493	12054
22	東京天文台年報 (Annales de l'Observatoire Astronomique de Tokyo) 発刊	科学史研究 才 16 号	18082
22	「東京天文台年報」が初めて編集	学術大観 p.496	12039
22	東京天文台年報を出す	帝國大学一覽 明治 22 年	16068
22	国際測地学同盟に加盟 (寺尾が同委員)	科学史研究 才 16 号	18079
22	国際メートル條約加盟国としてメートル原器を受く	科学史研究 才 16 号	18080
22	天文台の位置 東京天文台 (府前飯倉三丁目) 35° 39' 17.5" 139° 44' 30.3"	東京大学一覽 明治 16~25 年	16001
22	天象観測及暦書調整 明治 22 年より星の赤緯赤経の観測 (21 年)	東京大学 才 7 年報 明治 25 年版	15015
23 (1890)			
23 2	領府：神宮司殿との條約書 (2 編暦手教料と神宮司殿は帝國 東京大学 50 年史 大学に送付す(他))		11001

23	11. 25	北海道廳の依頼に応じ札幌本台向の経度差測定	学術大観 p493	12052	✓
23		経度観測：明治 23-24 札幌本台向	学術大観 p552	12004	✓
23		略暦規定 曆書調整に関する條約(帝國大学と神宮司)	帝國大学5年報 明治23年度	15017	✓
23		子午儀室及び太陽写真儀室を東京天文台に増築	科学史研究 才16号	18085	✓
23		本台拡張の問題 明治 23年子午儀室及太陽写真儀室	学術大観 p493	12050	✓
23		太陽写真儀室(麻布に)竣工	東京大学 50年史	11012	✓
23		東京天文台がグラフ製口径17cm サイロスタット及びブラッ シャー製口径13cm長焦真距離対物鏡を購入	科学史研究 才16号	18083	✓
23		サイロスタット及びブラッシャー対物鏡により蘆野敬三郎が天 体の湿板写真観測を開始	科学史研究 才16号	18084	✓
23		太陽面現象の観測 グラフ製口径17cm サイロスタット、ブラッ シャー製13cm対物鏡	学術大観 p510	12020	✓
23		平山 健が天体物理学研究のためのグリニッジ及ポツダム天文台に留学	科学史研究 才16号	18086	✓
23		報時事業：明治 23年電線にて正午を通報	学術大観 p547	12005	✓
24 (1891)					
24		度量衡法によりメートル法を制定	科学史研究 才16号	18087	✓
24		曆書調整について	帝國大学才6年報 明治24年度	15016	✓
24		編曆は帝國大学總長の直轄となる	東京天文台 100年 沿革集		

明	注	要	項	出	典	カードNo
25 (1892)						
25		水原準三郎 長崎及び横浜の経緯度精密測定事業	学術大観	p50	12061	✓
25		東京天文台員が Norris 大尉測天(横浜)と東京天文台向の	(天文学研究所) 科学史研究	才16号	18088	✓
		経度差再測定				
25		経度観測：長崎、横浜—本台向	学術大観	p552	12004	✓
25		報時事業：電信にて正午通報	学術大観	p547	12005	✓
25		明治26年曆の推算と印刷	帝國大学才7年報	25号	15015	✓
25		経度観測 麻布 35° 29' 15" 93 (本台)	学術大観	p553	12003	✓
26 (1893)						
26		星学科は2講座となり才一講座を幸冠、才二講座を平山が担当	東京天文台 100年 沿革集			
26		帝國大学理科大学に17講座を設置、中に星学の講座を含む	科学史研究	才16号	18089	✓
26. 8.		勅令才83号 帝國大学官制 12條 (8月10日公布：昭和6年昭和)	東京大学 50年史		11006	✓
		理科大学付属東京天文台長を置き理科大学教授より文部大臣之を補す。天文台長は帝國大学總長監督の下に於て東京天文台の事を掌理す。				

26. 12	赤道儀室(煉瓦二階建)(麻布)竣工	東京大学 50年史	11011	✓
26	東京天文台で赤道儀室を増築	科学史研究 第16号	18090	✓
26	本台拡張の問題: 赤道儀室	学術大観 p493	12050	✓
26	中央气象台より赤道儀室, 経緯儀室を本台に移した。 26年改築, 27年使用しようと思つたところに地震(明治26年11月26日) 子午儀を水路部に貸与。(経緯電測施行の為) 正午時通報 25年と同様誤差なく通報している。(陸軍, 逓信, 内務 三省の依頼による) (明治26年11月26日)	帝國大学 第8年報 明治26年	15014	✓
26	メートル法実施	科学史研究 第16号	18091	✓
26	天文器械: 子午儀, 子午環, 赤道儀 前年の使用に異なるとなし。	帝國大学 第8年報 明治26年	15025	✓
26	スートン ミスの赤道儀, 従来内務省に属せし(の)にして 該省地理院 観測課構内に移置しあり。明治26年	大学一覽 明治32-33 ユビ-9 全頁	16074	✓
27 (1894)				
27	東京天文台で経緯儀室を増築	科学史研究 第16号	18092	✓
27	水路部編 明治28年曆の解	科学史研究 第16号	18094	✓
27	長崎港と東京天文台間の経度差を測定	科学史研究 第16号	18093	✓
27	東京-長崎, 東京-横浜間の経度観測の報告書 本台経度の観測は要兩査	帝國大学 第9年報 明治27年	15013	✓
27	火星の衝の観測の報告書 (明治29年12月の7-13, 明治30年1月14-19)	帝國大学 第9年報 明治27年	15013	✓
27	本台拡張の問題: 経緯儀室	学術大観 p493	12050	✓
27	時の測定 経度原素の経度 $9^h 18^m 58^s.22$	学術大観 p543	12006	✓
明 28	要 項	出 典	カトNo.	
28 (1895)				
28	帝國大学 理科大学に星学第2講座開設	科学史研究 第16号	18095	
28	平山信の歐洲留學より歸國し, 帝國大学教授に就任, 星学第2講座を主宰。	科学史研究 第16号	18096	
28	平山信 教授となる。(明治23-27, 英, 独に留學) 測地学委員会と協力して各地の経緯度の精測及び 潮位の解析。 水沢経度観測所(明治32開設)と呼んで東京天文台 内に平山清次の手で経度変化観測	学術大観 p. 50 (天文資料の項)	12062	
28	時辰儀示針差測定の観測はじまる。	帝國大学 第10年報 明治28年	15012	
28	木村 榮が震災予防調査会の1事業として, 東京天文台 経緯測定を開始	科学史研究 第16号	18097	
28	国際測地学同盟に等緯度地帯の緯度協同観測 所設立に關する意見強まる (水沢も候補地の一つ)	科学史研究 第16号	18098	
28	ブラッシャー天体写真儀(簡・レンズ)購入	東京天文台 100年 略年表		

- 31 小惑星の光度観測 小惑星が433番エロス発見 学術大観 p.528 12015
- 31 ユリウス暦を廃し、グレゴリオ暦(現行暦)に法を採り、
儀のほろ 科学史研究 才16号 18109
- 31 文部省に測地学委員会が創立(初代委員長 日寺定壽) 科学史研究 才16号 18107
- 31 測地学委員会創立 寺尾 壽 初代委員長 学術大観 p.498 12026
- 31 国際測地学同盟が12国総会で北緯39°8'にある
64ヶ所に緯度観測所の設置を決議(水沢はその
観測地の一つに指定される)

32 (1899)

- 32 水沢臨時緯度観測所が創立(国際測地学同盟の
要請にもとづく)、初代所長は木村 榮 科学史研究 才16号 18110
- 32 平山 信の学位を受ける(天文学博士) 科学史研究 才16号 18111
- 32 銀河域の恒星観測開始 天文台 100年 略年表
- 32 中央気象台の依頼により気象観測の爲、日本に電信で時辰儀の時差を比較
(時刻伝送機) 東京帝国大学一覽 明治32-33 16067

33 (1900)

- 33 小惑星の発見 平山信の発見による発見が最初
2個「日本」「東京」 学術大観 p.530 12014
- 昭和15年までに、小惑星1513個中9個を日本(明治以来)
が発見。

33. 3 新小惑星(軽・日本)撮影

天文台100年 略年表

明 年	要 項	出 典	才No.
33 (1900)			
33	平山 信が小惑星 Tokyo 及び Nipponia を発見(口径20cm 天体写真機による)	科学史研究 才16号	18113
33	小惑星の軌道計算 平山信発見の小惑星2個の軌道決定 (早乙女)	学術大観 p.534	12009
33	国際協同緯度観測に参加(1904まで)、水沢緯度観測 所の活動	科学史研究 才16号	18112
33	グレゴリオ暦法を法制化	科学史研究 才16号	18114
33	「読者会」才1回	学術大観 p.499	12030

34 (1901)

- 34 5. 18 マトラで皆既日食、平山 信・平山 清次・早乙女 清房等出張
観測(平山 雲天)。 科学史研究 才16号 18115

明 年	要 項	出 典	カ+No.
33 (1900)			
33	平山 信が小惑星 Tokyo & Nipponia を発見 (口径 20cm 天体写真儀による)	科学史研究 才16号	18113
33	小惑星の軌道計算 平山 信発見の小惑星 = 個の軌道決定 (早乙女)	学術大観 p.534	12009
33	国際協同緯度観測に参加 (1904まで), 水沢緯度観測 所が活動	科学史研究 才16号	18112
33	ケレゴリ才暦法を清算化	科学史研究 才16号	18114
33	「談話会」 才1回	学術大観 p.499	12030

34 (1901)

34 5. 18	スマトラで皆既日食, 平山 信・平山 清次・早乙女 清房等出張観測 (千早 雲天).	科学史研究 才16号	18115
34	皆既日食の観測 スマトラ 平山 他 晴. 成功	学術大観 p.558	12001
34	報時事業 横浜, 神戸両港の標時球に正時を通報するのを計画し, 翌35年実施した.	学術大観 p.547	12005
34	井上四郎が ヘルセロス座新星を独立発見	科学史研究 才16号	18116
34	太陽観測用シデロスソフト完成	天文台100年略年表	

35 (1902)

35 10. 4	東京帝国大学に於て編纂する暦面記載の日出入時刻変更 天文台関係法令集 14008 明35年10月4日 文部省 告示 日出入は従来太陽中心が地平線に見える時刻であつたものを, 明治36年暦より太陽面最上点が地平線に見える時刻とする.		
35	木村 栄が緯度変化の3項発見	科学史研究 才16号	18117
35	戸田光耀の入台に列天体写真に關する研究資料豊富になる 太陽面の連日撮影	学術大観 p.50 (天文学科の理)	12063
35	銀河の観測 大分県にて	大学 才17年報 (明治35年)	15009

36 (1903)

36. 3. 2	落球によつて正午を公示することになつた	月. 1-12, p.118 (明42.3)	2019
----------	---------------------	------------------------	------

36 木村 榮が緯度変化の事項を確かめるため国際測地 科学史研究 第16号 18/119
学同盟に南半球に於ける緯度変化の観測を提唱
(採択される)

36 内務省 神部署編：神宮略本暦 (以後毎年) 科学史研究 第16号 18/120

明治 要 項 出 典 以下

36 (1903)

36 高山 昇・丸橋金治郎編：陰陽暦対照年表(三巻版) 科学史研究 第16号 18/121

36 平山 信が小惑星 Hispania を発見 科学史研究 第16号 18/118

36 神戸、横浜兩港で報時球の制度を實施 (轉送資料) 科学史研究 第16号 18/122

36 天体の赤緯観測 子午環 ハリー・ゴーチ会社にて 学術大観 p.502 12022

36 緯度観測 水沢 一本台向 (36-37) 学術大観 p.552 12004

36 時刻の観測並に報告 主要港湾の表時球の電氣的連絡 学術大観 p.51 12068
(天文資料3巻)

37 (1904)

37 1. 16 子午環 本台に購入 学術大観 p.502 12022

37 東京天文台で ハリー・ゴーチ 製子午環(口径 21 cm、焦点距離 310 cm)を購入 科学史研究 第16号 18/123

37 ゴーチー 7吋子午環購入、据付け後年 学術大観 p.52 12070
(天文資料4の項)

37 20センチ(8吋)子午環、フランス製 ゴーチ 子午環 19/138 p.556で 月3号、p.105 (1920) 5/85
購入、天文台 蔵布館に。 (中野二郎記)

38 (1905)

38 平山 信が天体写真による時刻観測法の創案 科学史研究 第16号 18/126

38 寺尾 壽が帝国学士院会費となる 科学史研究 第16号 18/127

38 一戸直藏(米)及び新城新藏(独)が天文学研究のため 科学史研究 第16号 18/128
海外留学

38 東京天文台でワナー・スワゼー 製赤道儀を据付 科学史研究 第16号 18/124

38 東京天文台でリーフラー 製天文用振り時計を購入 科学史研究 第16号 18/125

38 時刻通報 陸軍号誌所、東京郵便電信局、中央气象台 第20年報、明38年 15008

地理学教室へ
(以後毎年)

標準時辰儀の使用(製時 囑託員) - 標準球に時刻通報

子儀の " (水路部 ") - 東京、網走間の経度測

本台、理科大学向の経度測量開始(39年4月で終結)

38 時の測定、写真による時刻観測(平山)、リーフラー振り購入 学術大観 p.543 12006

38 地理学教室へ正時通報 学術大観 p.547 12005

39 (1906)

39 経度観測 台湾埔里街一本台向 学術大観 p.552 12004

39 一戸直藏は米ヤーマ天文台で変光星の観測に従事(観測 科学史研究 第16号 18/131
星数 232個)

予備資料と
以下各一

- 39 橋元昌英・田代庄三郎が有線電信連絡により東京・台湾間の経度差を測定 科学史研究 才16号 18/30
- 39 平山清次等が樺太北緯 50° の日露国境線を測定決定 科学史研究 才16号 18/29
(日露戦争の講和條約に基づく委員会の手筈で翌年10月)
- 39 経度観測 樺太国境の測定(平山清次) 学術大観 p543 12003
- 39 11. 13 日露両国の国境測定委員、日本郵船小樽支店会議室にて 明治40年に完了すべしと決定事業についての最終的会議を行ふ。日本側13名。 月. 69-6. p175, 兵部 9043
国参考文庫あり
1976(4451)

明治	年	概	要	出	典	カード No.
39	(1906)	天文測量による国境線の測定 - 北緯50度旧樺太国境線調査報告、北緯国境線	月. 69-6. p175, 1976(4451)	9043		
39		平山清次 助教授になる。経度変化は早乙ノ清房に託す	学術大観 p51 (天文台54の号)	12064		
39		台湾沖経緯経度測量 東京一楠里社、東京一首里	才21年報 明治39年報	15007		
		- 楠里社一首里、東京一赤川 経差電測 (水路部 局誌) 本台の3行使用				
39		明治39~44年 変光星観測 232星 (-戸互換)	学術大観 p506	12017		
39		変光星の定規観測開始	天文台100年 昭和年表			
40	(1907)					
40	3	天体写真儀室 (新布) 竣工	東京大学 50年史	110/0		
40	10 2	北緯50度国境測定作業完了(詳細あり)	月. 69-6. p175, 1976(4451)	9043		
40		東京天文台で天体写真儀室を増築(翌年完成)	科学史研究 才16号	18/32		
40		天体写真儀室	学術大観 1993	12050		
40		東京・横須賀間の経度差を無線連絡により測定	科学史研究 才16号	18/33		
40		経度観測 台北・沖繩首里一本台間 東京・横須賀 築地・大塚崎他	学術大観 p551	12004		
40		樺太境界測定事業の天文測地学的作業	学術大観 p51 (天文台54の号)	12064		
40		水路部と航海年表刊行(以後毎年刊)	科学史研究 才18号	18/34		
40		経度観測 台湾・沖繩で観測(橋元)	学術大観 p553	12003		
41	(1908)					
41		平山 信が小惑星 1908 CV を発見 = 1900 FE - Nipponia で、これは1912年 軌道確認後 Nipponia と命名	科学史研究 才16号 18/37 科学史研究 才18補遺 18/37			
41		東京天文台でセーアハウス彗星の写真観測	科学史研究 才16号	18/36		
41		小惑星及び彗星の写真観測 フラッシュ-天体写真機使用 明治41.セーアハウス彗星, 42.ルー彗星, 34.ペルセウス座新星の発見, スペース撮影他	学術大観 p519	12018		

- 41 一戸直藏 講師となる (明 38 クリ米口留学) 変光星の観測 学術大観 p.51 12065 ✓
(天文学科の2年)
- 41 標時球に時刻通報 1/4 所増 (三港にちった) 学23年報 明.41. 15006 ✓
川司 (福岡県の嘱託員による)
- 東京-元山, 東京-横須賀 経差電測 水路部の依頼による 子午儀使用

- 41 報時事業 内司港の標時球に正時通報 学術大観 p.547 12005 ✓
41. 6. 20 内司港の報時球の設置を命じ, 6月20日から報時公示 月. 1-12 R1192 (42.3) 2019 ✓
(3期)
- 41 日本天文学会創立, 事務局 東京天文台内, 学術大観 p.51 12066 ✓
初代会長 寺尾壽教授, 会誌 天文月報 (天文学科の2年)
- 41 日本天文学会で機関紙 "天文月報" を発行 科学史研究 第16号 18138 ✓
- 41 日本天文学会 の創立 科学史研究 第16号 18135 ✓
- 41 戸田光潤 (東京天文台助手) が変光星カシオペア座YYと観 科学史研究 第17号 18227 ✓
(大正12年発表 確認) 科学史研究第17号で訂正
- 41 海軍大学校教授 芦野敏三郎 (明21, 東大星学科卒) 水路部任用 月. 62-11, p.271 9023
取扱員として編暦主任に. (42.44)
- 41 水路部無線報時による経度差の測量開始 天文台10年 42年報

明	治	要	項	出	典	カードNo.
41	(1908)					
41	1. 19	日本天文学会發起人会明治41年1月19日午後2時より東京天文台において出席者 18名 (詳細あり) 創立の隆名にて發起人会を遂行し会長, 副会長就任, 会長 寺尾壽, 副会長 戸田		月	1-1 p.10 明 41.4 (1908.4)	1001
41	1. 19	日本天文学会創立, 4月号より天文月報創刊			天文台 100年 42年報刊	
41	2	日本天文学会会則		月	1-1, p.2 (明41.4)	1001
41	3. 10	日本天文学会特別会費名簿 (一)		月	1-1, 巻末 (明41.4)	1001
41	11. 7	日本天文学会第一回定會, 明治41年11月7日 11時30分より 全日 6時~9時 近天文台において望遠鏡にて天体観覧 翌8日 午後2時~5時 天文台の器械及び圖書, 会室に観覧 (詳細あり)		月	1-1, p.88 (明41.4)	1001
41	4	天文月報 発刊の件 理学博士 寺尾 壽		月	1-1, p.1 (明41.4)	1001
41	6. 26	水原準三郎死去, 高政4年生, 一 明治41年6月26日 享年52才. 明治16年帝國大学創始以来, 星学を卒業した 高矢 理科大学星学科 入学, 卒業後天文台助手, 編暦 予詞, 田中館愛橘 (宮庭入) 明. 41年6月30日, 論文目録 刊行, 本田		月	1-5, p.47~49 (明41.8)	1
41	10	天文台の近状 (内外漢) 林有敬倉町, 東京帝國大学星学科教室, 主任教授 理学博士 寺尾博士 (天体力学), 平山博士 (計算室-理論天文学, 天体 天文学), 水原準三郎 (計算室-暦 今年報), 平山助教授		月	1-7, p.69-71 (明41.10)	5001

早女、小倉、一戸学士(計務室) 旧代高橋明足有田小川
 5人の equal (事務室)、膳岡、鈴木通、橋本、鈴木強七、山口
 (創地学委員会の新設計算をやっている)

41 日本全国に使用するとき (旧代庄三郎)

月、1-9、p.83 (明41.12) 2020

旧幕時代、報時の方法 時の鐘 櫓の太鼓、笛太の櫓等
 明治、時の鐘に代つて正午一斉の砲声、地方には電鈴、船舶には標時球、
 正確な時刻を通報するための天文台の報時の方法、
 自働報時機、写真、自働装置 図2あり
 東京、地方、標時球の三つあり。

東京報時 号砲所への通報

号砲所 第一師団に属し、官域内にあり、正午報知
 の装置を有す。報時は11時、電鈴が鳴りやむた
 瞬間から報時の信号)

地方報時 電線使用、東京一等郵便局 経由

正午3分前に天文台で電線接続 → 郵便局の
 電鈴が鳴り出す。一局を経由する全2の電線
 と通信器から自動報時機へ接続する。正午
 の信号は断線まで地方郵便局の電鈴が鳴
 りつづける。大阪以東北端迄まで(1.2号あり)
 大阪以西は太田局で中継伝達、他

明治	要	項	出	興	04No
42 (1909)					
42 3 31	東京府北多摩郡三鷹村大沢に民有地 73,284坪購入	東京大学 50年史			11009
42 3	東京府北多摩郡三鷹村の土地 8万 800余坪を本学の所有とせしめ、 これは天文台を将来この地に移すためである	東京大学 一覽 昭44-45			16027
42 7 25-26	北海道、東北地方、北陸地方、廣島、愛媛等は極光出現	科学史研究 第18号			18144
42 10 1	更に7589坪の寄附を受けた	東京大学 50年史			11009
42 11 1	明治43年曆に就いて(有田邦雄)、明治43年曆合覧行、昨年の 文部省令により不陰曆月日の記載廃止。Ediに伴い内容 配置等に変更あり。	月 2-8 p91 (明42.11)			5003
42 12 3	東京府北多摩郡三鷹村の土地を本台の敷地とした。	東京帝国大学要覽			17003
42	東京天文台が東京府三鷹村に新敷地を設定(面積22,890坪、予算226,000円)	科学史研究 第16号			13141
42	東京天文台が、テッソー製分光太陽写真機を購入	科学史研究 第16号			18140
42	シエタインハイル太陽写真機購入	天文台100年 昭4年表			
42	天象観測事業中主なもの	東京大学24年報(明42年報)			15005
	本年度の現象は 6月18日 部分日食観測、ハリー彗星 観測(明43年表)、11月27日 日蝕観測、1910年九彗星の観測				

- 42 標時球報時方法 (田代三郎) 月、1-12, p.117~(明42.3) 2019
- 42 平山 信教授 12吋シテロ スタットと共にトッパ-式 學術大観 p.52 12069
(天文学科の項)
- 42 單光太陽写真儀を用いて カルシウムの面光線の撮影
- 42 前年来測り地学委員会嘱託員が本年度変化観測の為に本台の 東大24年報(明42.3) 15035
の器械使用, 測り調査, 三角緯度測量の計算のため本台の
一部屋を使用.
- 42 東京天文台年報 才3冊 才5号 出版 月2-3 p.35(明42.6) 1002
一戸理学士 一重星観測及変光星の観測. 一重星……米国
エルケ天文台にて12吋望遠鏡にて約1年間観測.
- 42 本年度出版した書類 東大24年報(明42) 15004
東京天文台年報 才3冊 才5号 (明治42年4月)
重星の観測, 変光星龍座に2星の週期及変光曲線について
(東京天文台年報 才3冊 才6号 (明治43年2月)) 1903年
の星の表
- 42 平山 信が帝國学士院会員 科学史研究 才16号 18163
- 42 寺尾 壽が天文台設備事項調査のため英国に出張 科学史研究 才16号 18162
- 42 京都帝國大学に宇宙物理学講座が開講, 講座主任は新城誠 科学史研究 才16号 18139
- 42 仁川, 元山, 城津に於ける明治43年の日月食の計算, 韓国 東大24年報(明42) 15003
仁川観測所の依頼による.
- 42 来観者
- | | 教員 | 学生, 生徒, 留學生 | その他の内外人 | 計 | |
|-------|-----|-------------|---------|-------|----------------------------|
| 明治42年 | 72 | 1,286 | 511 | 1,869 | 東大24年報~27年報
(明42) (明45) |
| 43 | 86 | 1,593 | 587 | 2,266 | |
| 44 | 97 | 1,615 | 536 | 2,248 | |
| 45 | 101 | 1,652 | 498 | 2,251 | |

明治	要	項	出典	カトNo
42 (1909)				
42.	我國の編曆事業について (一戸直藏)		月、2-7, p.80(明42.6)	5002
	・韓国観測所について日用便覧出版する. …曆日その他の事項掲載			
	・海軍教授水路部属 戸野敬三郎 編曆事業, 視察の目的に			
	改米出張. 航海の必要上, 自国で航海曆を出版せねばなら			
	ないと感じ数年前から英曆を模倣した航海曆印刷.			
	現今では東京帝國大学で編曆をやっている.			
42	本台拡張の問題 北野郡三陽村に民有地 73,284坪を購入		學術大観 p.493	12050
43 (1910)				
43 4.	ハ) - 彗星観測, 早乙女理学士及中足 助于4月14日大連到着		月、3-3, p.35(明42.6)	5005
	滿洲日々新聞の寄. 幸児講 恩田煉瓦工場裏手高台を觀			

- 測地と定め 19日 建設着工。25日 午前3時40分に至り
彗星を認め、東京では天候不良のため成績悪し。
4月25日～5月18日の観測状況あり。(大連)
5月19日～6月14日 観測結局 大連 観測状況あり。 月.3-4, p.48(明42.7) 5005
43. 5 ハレー彗星接近、早乙女清房南滿洲洲大連に出張。 學術大報見 p51 12067
43. ハレー大彗星が出現、早乙女清房等観測のため大連に出張(42.6) 科学史研究 第16号 18146
43. 6 10 臨時緯度観測所長 理学博士 木村栄氏 英国王立天文学会 月.3-6, p.73(明43.9) 9001
会友に。(日本で一番目)
43 木村栄が英国王立天文学会会友に推される。 科学史研究 第16号 18151
43 東京天文台でとかけ座新星を観測。 科学史研究 第16号 18147
43 一平直蔵が変光星楯座KP及びRTを発見 科学史研究 第16号 18148
43 新星の光度観測。虫折蛸座新星観測が最初 學術大報 見 p527 12016
43 国際太陽研究同盟が4回総会が米Wilson山太陽観 科学史研究 第16号 18149
測所に開催(一平直蔵参加、日本に太陽常時観測所の
設置を誓告決議)
43 京都帝国大学に附属天文台創設(台長は新城新蔵、18cm屈折望遠鏡設置) 科学史研究 第16号 18145
43 天象観測事業中主要ものを挙げている。(前年度と異なるところは次通り) 東大才25年報 15001
ハレー及フレイ彗星の観測、虫折蛸座新星の観測
43 東京一橋大学、東京一小笠原島、経差電測 東大才25年報 明43 15034
水路部附属台員 本台の子午儀の使用
43 長崎港に報時球を設置 科学史研究 第16号 18153
43 朝鮮標準時を制定(標準3年線 東京8時30分) 科学史研究 第16号 18152
43 福見尚文(大学院学生)が留學、Poincaréに師事 科学史研究 第16号 18150
43 トロフト天文台及び同台長 アルヘンホルツ氏(理學士 福見尚文) 月.2-12, p.138(明43-3) 5004
43 本年度出版した書類 東大才25年報(明43年報) 15002
東京天文台年報 才三冊 才七号 埔星社、首里及台北に於て
経緯度観測
東京天文台報 才三冊 才一号 印度に於て皆既日食観測

明	治	要	項	出	典	才No
44	(1911)					
44	6. 26	一平直蔵氏学位を得る。博士論文、論文25篇、才一初より才19篇まで		月.4-4, p.62(明44.8)	555	
		は明治39年より43年に至る変光星の観測を随時公開した。				
44	10. 22	日食観測、東京天文台において、寺尾台長、平山教授以下 曇天にて中心の観測が妨げられた。初層は午後0時2分3秒、 後層は午後1時51分49秒(平均)。金環食。アジア、オセアニア 兩洲の大部分の地域とその近海に見え、他の地では部分食。		月.4-8, p.95(明44.11) " p.77 " "	5006	

44. 10. 23 編暦に関する万国会議。10月23日より一週日。パリにて開催。月. 4-10, p. 115 (明. 45. 1) 9003
 固定暦本編纂に関するもので各国出席者は新任の航海局長
 の多いため新方針について議することは機会。
44. 12. 1 銚子無線電信局へ毎夜9時中央標準時を通報 才. 26年報 (明. 44年) 15031
 明治44年12月1日より開始。逓信省の依頼による。
 (大正14年より午前11時。夏期中央11時。船橋無線電信局へ)
44. 銚子無線電信局より標準時報(東京天文台からは有線連絡) 科学史研究 才. 16号 18155
 を試験放送
- 44 東京-根室 経差電測。水路部嘱託員、本台の予儀使用。 才. 26年報 (明. 44年) 15032
 44 海軍水路部、中野徳郎、小倉伸吉が小笠原島(海底電信で 科学史研究 才. 16号 18154
 連絡)及び根室の経度測定
- 44 報時の信号 (田代三郎)。日本での報時信号の種類及方法。月. 4-2, p. 15 (明. 44. 5) 2027
 月. 1-9 及び 12 詳細
 世界各国で採用している信号の種類。1. 号砲: 砲声を時刻の
 信号とする。補正要す。砲煙: 土地の遠近による時刻の
 差をなく、かなり正確。2. 標時球。3. その他
- 44 小笠原島の経度測定。明治37. 8年戦後の際、防備のため 月. 4-3, p. 34 (明. 44. 6) 2021
 小笠原島へ海底電信線沈設。海軍水路部同島の経度を
 この線により測定。中野技師出張、小倉学士東京天文台の部
 受け持ち測定事業完結。北米、桑港、マニラ間海底線
 の中継所であるグアム島と小笠原島とは海底線あり。
 北米測量部数年前にグアム島の経度測定行なう。小笠
 原島、グアム島間の経度測定事業望ましい。
- 44 天文学年報 (Astronomische Jahresbericht) 1899年以降。 月. 4-4, p. 45 (明. 44. 7) 9003
 毎年出版。天文学及びその関係学科にわたる著書、論文、記事。
 報時(年分)ドイツ天文学会の保護のもと Wislicenus 氏の編輯。同氏の
 死後1905年より Berberich 氏により継ぎ継ぎに、今回健康上その
 重任を終り、今年よりドイツ王立天文計算部に引き継がれ
- 14 田代三郎氏の栄転。東京天文台から長崎県技師に栄転。 月. 4-9, p. 105 (明. 44. 12) 501
 創設された港務部観測所技師として時の観測を担任。又
 近く開始される標時球についても掌る。
- 14 平山清次氏の博士論文。東京理科大学助教授。11月17日理学博士 月. 4-9, p. 105 (明. 44. 12) 556
 学位得る。学位記…明治31年勅令第344号学位令第2条により理学
 博士の学位を授け、論文7編。

明治 大正	要 項	出 典	頁No
44 (1911)			
44	天象観測事業 (前年度と異なるもの) キース、ブルクス、ボレリー・ケリセ、バルジャウスキー 彗星の観測。 雙子座新星の観測	才 26 年報 (明 44 年報)	150 33
44	太陽面現象の観測 シュタインハルツ 10.5cm 赤道儀で太陽像の記録観測開始	学術大観 p.510	120 20
44	木村栄が「緯度変化に於ける五項」により帝国学士院恩賜賞を受賞	科学史研究 才16号	181 56a
44	一戸直蔵と平山清次が学位を得る。	科学史研究 才16号	181 56b
44	明治 44 年度に於て出版した書類 東京天文台年報 才5冊 才1号 ハリー 彗星の観測	才 26 年報 (明 44 年報)	150 30
	才5冊 才2号 子午線経過の予報の観測 (社)		
44	東京天文台年報 才5冊 才1号 及び 才2号 発行	月. 4-11, p.102 (明 45.2)	100 3
44	経度観測 小笠原硫黄島	学術大観 p.552	120 04
44	観時事業 標準時を有線にて銚子無線電信局へ	学術大観 p.547	120 05
45 (1912)	長崎港で報時球信号を開始	科学史研究 才17号	181 57
45 2. 10	長崎報時球の報時信号開始 (田代庄三郎)	月. 5-1, p.4 (明 45.4)	20 14
45	本台 - 水路部 経差電測、水路部嘱託員、子午儀使用 東京 - 仁川 " 朝鮮總督府嘱託員 "	才 27 年報 (明治 45 年報)	150 25
45=1	水沢緯度観測所の使用器械 (4月現在): 天頂儀, 子午儀, 地震検測器 2, 気象器械, 恒星時クロノメータ - 2	科学史研究 才17号	181 58
45=1	東京天文台で標準時、銚子無線電信局から自動的电波報時を放送	科学史研究 才17号	181 59
45=1	東京天文台 (三鷹) 構内に基礎尺比較場を設置	科学史研究 才17号	181 60
45=1	平山信が改米天文台を視察	科学史研究 才17号	181 62
45=1	国際測地学同盟總會に平山信が出席	科学史研究 才17号	181 61
45	河合章一 郎 理科大学府に任命され東京天文台に勤務	月. 5-6, p.71 (明 45.7)	50 2
45	東京正午砲の精度	月. 5-4, p.26 (明 45.7)	20 01
45	東京午砲移転 7月21日旧本丸より牛込区市ヶ谷陸軍士官学校内に変更されているが8月2日より又丸の内に移設	月. 5-5, p.55 (明 45.8)	20 01
大正 元 (1912)	無線電信の応用、天文台より自動的に銚子無線電信局の送信器を動作し 正確な送時を与えることとなり、準備完了後、本台から実施	月. 5-5, p.58 (明 45.8)	20 08
元 8	暦中改正、官報を以て改訂を公告 明治 45 年暦中改正、1. 8月31日の 天皇御祭日を加え、11月30日の祭日削除、後桃園天皇祭日の7月31日 皇太子御祭日 2月4日	月. 5-6, p.67 (明 45.9)	50 07
元 9. 1	時刻通知の自動化 陸軍官砲所、東京郵便局、中央氣象台、地震学教室へ手送→自動的 装置、大正元年9月1日より実施	才 27 年報 (明治 45 年報)	150 29
元 9. 2	無線電信による時刻報告、東京天文台より銚子無線電信局 を介し、直接に午後9時と毎夜 (日曜日を除く) 報告、9月20日より開始	月. 5-6, p.70 (明 45.9) 大正元年	20 09

元	無線電信による時刻報知に就て (早乙女清房) 信託時報	月. 5-7. p25 (大元10)	2009
元	昼間及夜間に於ける時刻測定の精度について (伊藤通正)	月. 5-5. p89 (大元11)	905
元	全国時計面の統一 (矢野伊三郎) 昭和天皇標準時刻創設の企てあり。	月. 5-5. p59 (大元8)	9004
元	時刻の観測並に報告、正午通報を手動式より自動装置へ	学術大報 p51. (天文学部工務)	12068

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp